心は被災者とともに

東京で募金活動展開

大船渡出身の若者グループ　復興支援に立ち上がる

東日本大震災

被災地の復興を願い、募金活動を行う「大船渡市被災者家族の会」のメンバー＝東京・池袋駅東口

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた被災地の復興支援に、東京都内や近郊に在住する大船渡市出身の若者グループが立ち上がった。実家が流失したり、親族が行方不明になっている被災者家族の大学生らがボランティア団体を組織。「すべての被災地、被災者のために」と、都内で募金活動を展開している。これまでに寄せられた義援金は300万円を突破。募金活動は30日まで続け、集まった義援金は被災地再生の願いを込めて日本赤十字社に寄託するという。

このボランティア団体は「大船渡市被災者家族の会」。大津波に呑み込まれてしまった故郷の惨状に衝撃を受け、「今、自分たちにできることをやろう」と、同会代表の長谷川一城さん（大学4年）＝大船渡町出身＝らがメールや会員制交流サイトを使って中学、高校時代の友人らに募金活動への協力を呼びかけ、地震発生から2日後の13日に任意団体を立ち上げた。

この呼びかけに賛同し、集まった同会のメンバーは現在51人。都内や東京近郊に在住する大学生、社会人が中心で、自宅が流されたり、親族が行方不明になっている被災者家族も数多く参加。団体立ち上げ前に都内で募金活動を行っていたグループも合流するなど、若者たちの連帯の輪は短時間で急速に広がった。

被災者家族の会としての募金活動は、警察署から道路使用許可が出た16日から池袋駅東口周辺でスタート。被災者支援を訴える手作りのプラカードを手に街頭に立ち、連日4～5時間募金を呼びかけている。

同会によると、募金活動は銀行口座で義援金を管理できる平日に限定。20日現在の活動日数はまだ3日と少ないが、集まった義援金は先行して募金活動を行っていたグループの分を含め、304万円に達しているという。

同会では、今回の活動が出身地の大船渡市だけでなく、隣接する陸前高田市や釜石市などすべての被災地、被災者の支援を目的としていることを強調。

メンバーたちからは「被災者の皆さんは今、私たちには想像できないほどつらく、悲しい思いをされていると思いますが、決してひとりではないことを忘れないでください。被災地から遠く離れた東京で、われわれメンバーも被災された家族の一員という思いで力を合わせ、全員一丸となって頑張ります」とのメッセージが寄せられている。

同会によると、都内では陸前高田市関係者による募金活動が行われているとの情報もあり、被災者支援の輪が各方面で広がっているようだ。

同会のメンバー次の通り（20日現在）。

遠藤公太、菅生崇也、荒木勇輝、米沢優希、米沢香澄、菅原保之進、千葉尚子、西條有紗、佐藤拓、佐藤彩、村上充子、大和田彩加、金野克成、猪股大貴、菅原敬三、平尚人、日野瑠美、千田一馬、荒木勇人、村上玲伊弥、米田一輝、吉田沙生、村上隆太郎、小松恵人、中村千明、佐藤光優、川嶋あつこ、大森達也、新沼勇士、志田達彦、新沼安里紗、平野恵人、中澤類子、鈴木美里、笹崎航大、中村史香、新沼恭平、田中昭絵、海山諒介、菅生翔平、千葉美嶺、金野乃士、大久保学、及川沙也加、鈴木了、新沼佑成、佐々木晴江、山本和美、刈谷まな実、長谷川風夏、長谷川一城

3年前のお礼に招待

一関市厳美町の祭時温泉

竹駒町

一関市の温泉施設から招待を受け、バスに乗り込む避難者たち＝竹駒町

平成20年6月に発生した「岩手・宮城内陸地震」で被災した一関市の温泉施設が19、20の両日、陸前高田市竹駒町の下沢公民館に避難する地域住民らを招待。宿泊や日帰りで温泉を楽しんでもらうとともに、衣類などの救援物資も届けた。

下沢公民館には、津波によって家を失った地域住民ら約20人が避難生活を送る。現在、水は自衛隊の給水車や近隣地域の井戸などから調達しているが、電気、ガスはすでに復旧しており、食料も配給などで確保できている。

薬も避難者一人ひとりの体調を確認し、必要な分は市の本部を通じて調達。しかし、おむつや粉ミルクが足りないとの声が出ているという。

こちらでは、避難者のほか町内で捜索活動にあたる地元消防団や近所に本部を立ち上げた市社協職員らの食事も請け負う。これまでは地域を挙げて準備を進めてきたが、震災から10日が経過して職場に戻る人も増えてきたことから、炊事担当を2交代制にするなど長期化を見据えた体制づくりに移り変わってきた。

そんな中で19日、一関市厳美町祭時にある祭時温泉「かみくら」の送迎バスが公民館を訪問。「岩手・宮城内陸地震でお世話になった。被災者の気持ちが分かるものとして、お風呂で協力したい」と被災地入りし、突然避難所である公民館を訪ねてきたという。

思いもよらぬ温泉への招待に避難者らは大喜び。同日は家族連れなど11人が1泊2日で、翌日は第1陣を送り届けたバスに日帰りで28人が乗り込み、およそ10日ぶりの入浴を満喫した。

避難者らは、震災で疲れた体を休めることができたと大満足の様子。松野美佳さん（41）は「お風呂も1週間ぶりで、ゆっくりできました。久々に家族だけの時間を過ごせたし、子どもたちも喜んでいました」と笑顔を見せていた。

かみくらからは入浴支援だけではなく、衣類やおむつなどの物資も届けられた。バスの運転手は「油の確保ができたらまた来ます」と約束していたといい、細やかな心遣いに公民館の避難者らは感謝しきりだった。

力合わせ日々送る

赤崎漁村セの避難者ら

大船渡市

東日本大震災から10日が過ぎた。大船渡市赤崎町の赤崎漁村センターでは現在、約120人が寝泊まりをしており、消防団やボランティアも合わせると約200人が避難生活している。震災当初は約300人が避難していたが、小学生や保育園児らの多くが帰宅したという。

同センターには、同町の生形、山口地区の住民が避難してきている。避難者らの多くは互いに見知った仲で、津波が襲来した日には「一致団結していこう」と全員で意思確認。毎朝、同町の全公民館代表を集めての朝礼を行って意思の疎通を図り、力を合わせて災害を乗り越えようと生活している。

15日からは、「銀河連邦」に加盟し、同市と交流のある長野県佐久市などから応援に来た医師や看護婦が避難者らの診療に当たっている。

同町字生形の吉田カツコさん（76）は「皆さんのお世話になっているおかげで、元気に暮らせている。チリ地震と今回で2回被害にあったが、ぐちぐち言っていてもしょうがない。みんなと力を合わせて頑張っていきます」と話していた。

赤崎漁村センターで避難生活を送る人々

「心配りありがとう」

自衛隊員に住民感謝

がれきと化した自宅跡へ通い、「まだ大切な何かが残っているかもしれない」と望みをかけ連日片付けにあたる人たち。その中で「自衛隊の皆さんによくしてもらった」と話す被災者がいた。

及川久さん（67）、綾子さん（68）夫妻と、綾子さんの姉・今野トヨ子さん（78）は、大船渡市三陸町越喜来で被害にあった及川さん宅から、3日間かけてさまざまなものを発見。

海泥や砂まみれになった物を見ると、落胆や煩わしさから、持ち帰る気力も萎えがち。しかし及川さんらは、阪神大震災後にも活躍した隊員たちから「洗って使えるなら、些細なものまで拾ったほうがいい」とアドバイスを受けた。あとから振り返ったとき、あきらめたことを後悔するからだという。

「そんだらまず、何でも拾うべと思って」と綾子さん。探してみると、家具や寝具だけでなく持病の薬もあった。トヨ子さんも、「自衛隊さんは見つけたもの一切合切持ってきてくれて。大きな物は家の前さ並べてね、小さなのはわざわざ手渡しで。たった1枚の写真まで拾ってくれた」と感激したという。

「無駄話もせず真剣に作業している。みんな本当に親切。頭が下がる」と久さん。任務を遂行する姿だけでなく、隊員らはその細やかな心遣いでも被災者の心を明るくしてくれたようだ。

住民㊧の確認を取りながら作業にあたる自衛隊員＝三陸町越喜来で

盛小に入浴施設

陸上自衛隊が設置進める

校庭内で設置作業が進められている入浴施設＝日頃市町

被災者の避難場所となっている大船渡市立盛小学校の校庭で20日、陸上自衛隊による入浴施設の設置作業が始まった。運用可能になった段階で、順次避難者らが利用できる体制を整える。

避難者用の入浴支援施設は、市内では日頃市町の五葉温泉と三陸町越喜来の遊・YOU・亭夏虫の2カ所だけ。両施設合わせた入浴可能人数は1日最大570人で、市内では避難所で5000人以上が寝泊まりしている中、さらなる充実が求められていた。

盛小の校庭では、自衛隊員が浴槽や脱衣所とするスペースに男女別のテント2張を設置したほか、排水用の水路などを整えた。浴槽に貯める水や、湯の温度を保つ発電機も確保しており、準備が整い次第運用を始める予定。

市によると、1度に最大50人程度が利用できるという。入浴できる住民の選定や盛小学校までの搬送方法などは、今後調整することにしている。

五葉温泉は一般利用可能に

午後6時以降

大船渡市日頃市町の五葉温泉は21日以降、午後6時から同9時まで、一般住民の入浴も受け入れる。入浴料は大人が400円、小学生が200円、乳幼児は無料となっている。

五葉温泉では18日以降、日中時間帯は避難生活を送る市民を対象に、入浴支援を行っている。これまでの運用で目立った異常がなかったことから、一般客向けにも営業することを決めた。

午後6時から同8時までは食堂も営業しているが、豚汁セットのみの提供で、1食500円となっている。

運営する五葉地域振興では「水道が復旧せず、風呂に苦労している家庭が多いと聞く。被災者の皆さんに喜んでもらいたい」と話している。

“名もなき花”窓口に

復興へのメッセージも

大船渡市

被災者らの各種申請や相談に応じている大船渡市役所1階の市民生活環境課窓口には、復興へのメッセージが添えられた花苗2鉢が置かれている。贈った人の氏名は分からないが、心温まるエールと可憐に咲く姿で、職員と市民らにささやかな癒しを与えている。

この花苗は、被災後に市災害対策本部の職員が奥州市水沢区の商業施設「アテルイ」で物資調達を行った際、車から離れ戻ってきた時に置いてあったという。職員は善意として持ち帰り、現在は24時間体制で業務が続く窓口に置かれている。

鉢には「がんばって下さい。応援しています」「皆でがんばりましょう」と記されたメッセージカードも添えられている。復興や安否確認などへの思いが焦りとなり、どうしても気ぜわしさに追われる日々が続く。燃料不足のため寒さが広がる庁舎内でも健気に咲き、来庁者の落ち着きにつながる彩りを演出している。

市役所の相談窓口に置かれている花苗＝大船渡市

縁ある町で救援活動

上山市消防署員がエール

実に多くの地域から、救援者らが駆けつけている。阪神大震災の教訓を知る大阪府警。銀河連邦共和国として大船渡市と交流のある神奈川県相模原市。四国や中国地方など、はるか遠い町のナンバープレートがついた車もある。「よくここまで来てくれた」と住民の感激は大きい。

山形県山形市・上山市の消防本部からは、合わせて約30人が陸前高田と大船渡で検索活動を展開。上山市の救急救命士・佐藤浩章さん（50）＝**写真**＝は、一昨年に碁石海岸で行われたロープ救助技術大会「リアス・ロープレスキュー・リサーチラリー」にも出場しており、両市へは観光を含め何度も訪れていた。

19日に来大した佐藤さんは、町の変貌に愕然。「かつては湾港防波堤の高さに驚いたもの。津波防災意識の高い地域と知っていただけに、こんなことになろうとは…」と絶句する。

「訪れるたび、いろんな方によくしていただいた。どちらも好きな町。絶対復興してほしい。残された皆さんの行く手に、必ずや光が見えると思っている」とメッセージを残し、数日間の活動へと向かっていった。

安否情報　伝言メモ

▽長部小学校に避難している戸刺信男さん、哲子さんへ。無事の知らせ新聞を見て安心しました。私は元気です。私を頼って来てください（盛町、鈴木眞紀）

▽永盛明夫・洋子、無事です。避難先は、馬場保険事務所、馬場宥之宅（TEL0192・27・5587）です。

▽陸前高田市の小林百合子さん、情報を知らせてください。連絡先は馬場宥之（TEL0192・27・5587）まで。

▽杉田祝子（姉）を捜しています。鈴木幸子（高田町館の沖）まで情報を。現在、大船渡町砂子前2の4、佐々木伸宅（TEL090・4552・6067、TEL22・9253）に居ます。佐々木敦子（姉）を捜しています。佐々木伸宅（同）まで連絡を。

▽行方不明で紹介された高田高校3年生（卒業生）の後藤葉月さんは、末崎町大田の自宅で元気で居ます。

▽NPO法人みなと未来三陸（金野広先理事長）は、21日（月）13時から大船渡市大船渡町の大船渡北小学校体育館で理事会を開く。災害復興の話し合いを行うので参加を。

▽オフィス小川の派遣（または予定）のスタッフの皆さま。安否確認のため伝言ダイヤル（TEL171・1・0192・25・0488）へメッセージをください。皆さまに連絡できないため時間がかかりますが、みんなで復興に向けて頑張りましょう！

▽気仙町の河野律子さんは、盛岡市手代森の西村倬郎さん宅で滞在中。元気だそうです。

▽千葉県の千葉とみ子さんが、及川まみ子さん＝高田町字西和野146の3＝を探しています。情報をお持ちの方は千葉さん（TEL090・8346・1323）まで。

▽下中井の吉田貴俊（32）、さゆり（32）、帆乃香（9）、端希（5）、蒼馬（3）、みんな無事です。

▽笹崎の新沼洋（53）、きぬ子（54）、利光（29）、一（35）、まゆみ（24）、たいち（1歳6カ月）、みんな無事でいます。

▽上富岡9の18の吉田玲子（79）、邦夫（59）、かつ子（55）、智博（27）、みんな無事です。

▽赤崎町生形8の6の氏家智恵子（昭和16年5月生まれ）・則夫（同37年9月生まれ）、村上浩美（同36年3月生まれ）・渉（平成4年11月生まれ）は元気で、立根町字宮田77の14の田中仁右エ門さん宅におります。

▽盛町字内ノ目14の19、清水均と敦子は元気です。美容室ハーモニー1階はダメでした。現在は立根町字前谷地25の3、清水義雄宅（TEL27・2602）におります。連絡先は携帯TEL080・2817・0835。

▽大船渡町中央通り54の10の佐藤孝太郎さん（74）と美伊子さん（70）、同町新田37の1の佐藤ハツエさん（71）は、大船渡町字上山7の1の佐藤孝也宅（TEL26・2804、携帯TEL080・1818・1458）におります。

▽レジスターが壊れて困っていましたが、19日にマイヤ大船渡インター店様のご協力により再び使えるようになりました。忙しい中、「お互い様」と言って直していただき、大変感謝しております。本当にありがとうございました。（立根町・オリーブ従業員一同）